

令和2年度 岐阜県家庭教育支援推進事業（家庭教育支援員）の活動報告書

◆市町村名

海津市


◆配属部署

教育委員会

◆家庭教育支援員の役割

昨年度までの活動を基盤に相談体制の充実および、子育てに関わる関係機関との連携の充実を図る。心理カウンセラー・元教員というキャリアを生かし、子育ての悩み相談および継続的なサポートを行う。また、不登校生徒の保護者会や就学を終えたニートといわれる若者をもつ家庭への支援を行う。子育てにかかわる人（保護者、保育士、教職員、地域の方）に心理学の専門性を生かし、子どもの発達心理など必要に応じた内容で学習機会を提供する。

◆主な活動（12月末現在）

<p>■相談対応（公民館内に相談室を設置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来所相談（83件） ・電話、メール相談（121件） ・アウトリーチによる相談（18回） ・不登校児童生徒の保護者会「Hidamari」の開催（偶数月の第4土曜日） <p>■学習機会の提供（12回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園・学校の家庭教育学級（保護者対象の子育て講座） ・PTA主催の講演会（生徒・保護者対象に心理に関する講演会） ・就学時健診での子育て親育ち講話 ・教職員研修会 ・子育て心理学講座・一般向け心理学講座 ・子育て支援地域人材育成講座（西濃圏域） ・子育て通信を通して、子育てについての執筆 <p>■関係機関との連携（43回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海津市家庭教育推進協議会に参加し関係者との連携を図る。 ・園、学校を訪問し、教職員やスクールカウンセラーと情報を共有し、連携した支援をする。 ・市社会福祉課や子ども課・市発達支援センターとの情報を共有し、アウトリーチ等連携した支援をする。 ・警察、子ども相談センターなどとも必要に応じて連携する。 <p>■調査分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の不登校、ひきこもり、ニートで悩む保護者や家庭への支援方法の考案 		<p>[海津市にここに相談室の案内]</p> <p>心の窓をカウンセラーと一緒に開けていきませんか</p> <p>海津市にここに相談室は、心理カウンセラーが行うところの相談機関です。一人で抱えてきた悩みや問題を、カウンセラーに相談することで、こころの扉が開かれます。誰でも心を閉じたまま、自分一人だけで悩みや問題を抱えたまましていると、知らないうちにどんどんとネガティブな思考に陥ってしまいます。悩みを相談することで、もよもよが少しでも軽くなるようお手伝いをさせていただきます。</p> <p>ここに相談室では、以下のケースに対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て、しつけ…(子どもとの関わり方・子どもの伸ばし方・自立力の育て方・叱り方とほめ方等) ●学校(園)生活についての相談 ●保護者自身の悩み
---	---	---

◆成果

○相談室開設の周知と相談機会の広がり

- ・広報誌やリーフレットの配布、園・学校での講座を実施したことで、家庭教育支援員の活動と相談室が認知されてきた。また、相談者の利便性を考慮し、土曜日も相談対応できる環境を整えたことにより、気軽に相談できる場となってきている。
- 不登校に関する相談・・・25% 園・学校生活に関する相談・・・21%
- 保護者自身の相談・・・13% 子育てに関する相談・・・18%
- ・学校や医療機関・関係機関との連携を図ることを通して、再登校につながったり、子育ての悩みやストレスを軽減させたりするなどの効果を出している。

○「不登校の親を支える会」では、悩みを共有する親同士が知り合いになり、悩みを相談し合うことによって心の負担が軽減され、親子揃って自立に向けての支え合いができた。

○子育て・親育ち講座実施後のアンケートの結果から、約9割の受講者が、日々の子育てを見直す機会となったと回答するなど、高い評価を得ている。

◇学校だけでは支援が困難な家庭や、不登校児童生徒の支援について、スクールカウンセラー・適応指導教室・関係機関等との連携がさらに求められる。

◇アウトリーチ型家庭教育支援

学校・保護者の共通理解のもと、訪問型家庭教育支援を行うことができたが、支援を届けたい家庭の保護者が自ら相談するケースは少ない。さらに、学校・関係機関と連携を図りながら、訪問型支援の充実を図っていく。

◆問い合わせ先

海津市教育委員会 社会教育課

0584-53-1536